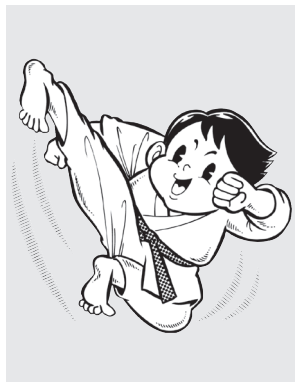


北広島市における中学校 武道必修化に向けた取組



北広島市教育委員会

北海道北広島市は、平成18年度から財団法人地域活性化センターの承認を受けて、全国各地から約1000名の選手が参加する「はまなす杯全国中学生空手道選手権大会」が開催されています。

中学校武道必修化に向けて、市が空手道を地域に密着したスポーツとして育んでいることから、平成22年度に文部科学省の委託を受け、北広島市立東部中学校において、「空手道」を取り入れ、実践研究を行いました。

1 北広島市の概要と「空手道」との関わり

北海道北広島市は、札幌市と新千歳空港の間に広がるなだらかな丘陵地帯にあり、豊かに息づく緑の環境、整備された交通網など自



北広島市内の島松沢にある
クラーク記念碑（昭和25年建立）

士が「ボーイズ・ビー・アンビシヤス（少年よ、大志を抱け）」の言葉を残した地であるこのまちは、現在、人口およそ6万人で、小学校10校、中学校7校があります。

また、平成元年の北海道はまなす国体では、北広島市で空手道競技が開催されました。平成のはじめとなる元年に開催したこの大会を全国の空手道に携わる子供たちに伝承されることが、本市が空手道の全国の拠点として芽生えることを願い、平成18年度から、毎年

2 「空手道」実践のための整備

空手道を中学校で指導するにあたり、なぜ空手道なのかということとを明確化するため、地域のスポーツ関係者等（地元大学代表、体育協会代表、北海道空手道連盟代表、PTA代表等）で構成する「武道必修化に伴う地域連携指導推進協力者懇話会」を開催しました。

いやる心の醸成を図る。

（2）安心・安全な指導

北海道空手道連盟から、外部指導者を派遣してもらい、事前に危険予測を行ったうえで体育科教員とチームティーチング（TT）で授業の実施にあたる。生徒たちが、空手道に対して、興味・関心を持つよう指導方法を工夫する。

（3）道着などの保護者負担について

財全日本空手道連盟から示されている部分でもある「学校で空手道に取り組むにあたり、ジャージで十分に行うことが出来、場所や設備も特別の整備がなくても実施できる」ことから、保護者負担や設備投資が少ない。

3 東部中学校における「空手道」の実践

（1）指導体制の確立

東部中学校で空手道を実践するにあたり、武道としての「空手道」

（4）外部指導者の在り方について

外部指導者については、学校現場に入ることになるので、競技団体からの推薦があり、かつ日本体育協会の指導資格などを持っている指導者を選定して活用する。

以上の4点を主な柱として、東部中学校1学年男子81名を2グループに分け、1グループあたり8時間の授業を行いました。

なお、場所については、東部中学校体育館を利用し、その中のマット上が武道場だという認識を生徒たちに持つもらうために、競技用マット（10m×10m）を購入し、授業にあたりました。

と、授業としての「空手道」をどのように扱っていくかの課題がありました。それを解決したのが、

【表 1】

指導と評価の計画		領域：「武道」		単元：「空手道」（1学年）【8時間】	
時数	学習のねらいおよび学習活動	学習における具体的評価規準・評価方法			
		関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
1	学習1 オリエンテーション ・空手道の学習の仕方や練習方法を学ぶ。 ・空手道に対する興味・関心を高める。 学習活動 ・学習ノト、授業の流れ、約束事項の説明 ・空手道の歴史や特性の学習 【技能の内容】 礼法、立ち方、進退動作、体ほくしの運動	① 礼儀正しい態度で関心をもって学習に臨み、空手道を学ぼうとする。 (観察)			① 空手道の歴史や特性、礼法的重要性について書き出している。 (学習ノト)
2 3 4	学習2 空手道に必要な基本動作と技を身に付けて楽しむ ・空手道に必要な基本動作を身に付ける。 ・繰り返しの回数が多くならないようにし、2人組で動きに変化をつける。 ・段階を追って技能を高める。 ・受け技・攻撃技と基本動作を関連付けて身に付ける。 学習活動 ・個人技能を高める練習、相対での練習 【技能の内容】 単独→相対での受け技と基本動作、攻撃技と基本動作、体ほくしの運動	② 新しい技を習得する喜びを味わい、空手道を楽しもうとする。 (観察、学習ノト)	① 技を習得するための課題を見付け、練習や試合の仕方を選択している。 (観察、学習ノト)	① 受け技と関連する基本動作ができる。 (観察) ② 攻撃技と関連する基本動作ができる。 (観察) ③ 基本となる技を施すことができる。 (観察)	② 基本動作の重要性と方法について言ったり書き出したりしている。 (観察、学習ノト) ③ 基本となる技の名称をあげている。 (観察、学習ノト)
5 6 7	学習3 身に付けた技能を用いて、個人形を工夫して楽しむ ・段階を追って技能を高める。 ・3人～5人組による練習、見取り稽古により課題を確認し、練習方法を工夫する。 学習活動 ・個人技能を高める練習、3人～5人組での練習 【技能の内容】 自由練習・簡易の試合、体ほくしの運動	② 新しい技を習得する喜びを味わい、空手道を楽しもうとする。 (観察、学習ノト) ③ 練習や簡易な試合において、ルールや禁止事項を守り、自他の安全に留意して行動しようとする。 (観察、学習ノト)	② 仲間と協力し、考え、教えあいながら、課題の解決に向けた方法を見付けている。 (観察、学習ノト) ③ 形の演武を通して自分の課題を発見している。 (観察、学習ノト)	③ 基本となる技を施すことができる。 (観察)	③ 基本となる技の名称をあげている。 (観察、学習ノト) ④ 簡易な試合での試合方法やルールについて言ったり書き出したりしている。 (観察、学習ノト)
8	まとめ 学習のまとめ ・個人形の試合を通して技のポイントと自分の課題を整理し、技術的な理解を深める。 ・個人ノートの記録をもとに、学習を振り返り、まとめをする。	① 礼儀正しい態度で関心をもって学習に臨み、空手道を学ぼうとする。 (観察、学習ノト)		③ 基本となる技を施すことができる。 (観察)	① 空手道の歴史や特性、礼法的重要性について書き出している。 (学習ノト)



河野校長と安保教諭、千田先生による連携した授業展開

なって、前述の『空手道指導の手引』を参考に単元目標・単元計画を作成し、授業を実施しました。

（2）単元目標

- ・技ができる楽しさや喜びを味わい、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、基本形を演武することができるようになる。
- ・空手道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、技を当てないなど健康・安全に気を配ることができるようになる。
- ・空手道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

（3）単元計画（表1）

1 学年男子対象・全8時間

（4）授業の実施

安保教諭が主体性をもって授業全体を作り上げ、外部指導者である千田先生は授業の中での要所で

効果的な示範演技や技術指導、技の説明を行い、それぞれの役割をうまく担い、授業が進められました。

（5）教材の工夫や効果的な指導方法

- ・学習ノートの活用（表2。※一部抜粋）
 - 学習ノートを活用し、学習のねらいごとの振り返りを行い、授業内容の定着を図った。
 - グループ毎の練習
 - 形の練習において、4～5人のグループに分け、グループ毎に練習させることによって、生徒同士で教え合い、学び合う協調性や相手を思いやる心の醸成を図った。
 - DVDの活用
 - 技のDVDをモニターで写すことにより、生徒たちが自ら、分からない分野や不安な部分を視覚的に確認できるよう工夫した。
 - 外部指導者による示範演技
 - 外部指導者による示範演技の効果は絶大で、凛とした雰囲気の中、間近で本物を感じることができた。



上段受けの一斉指導を受ける東部中学校生徒

4 平成24年度 本格実施に向けて

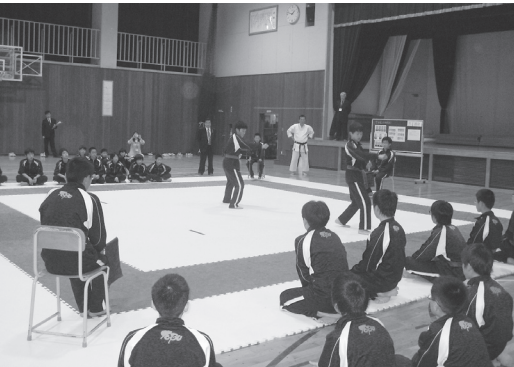
（1）アンケート結果から

空手道の授業を実施した生徒を対象に、授業前、授業後でアンケートをとった結果、授業前では、

体験は、生徒たちに「私たちもそれができるようになりたい」という気持ち、「空手道」をやってみたいという気持ちの育成に大きな影響を与えたと思われます。

空手道学習ノート		1年__組__番	氏名	空手道歴(空手道授業以外)	__年
	1	2	3	4	
授業の流れ	挨拶出席確認 オリエンテーション 空手道の歴史と特性 授業の約束確認 礼法 立ち方・姿勢 突き 集合挨拶	挨拶出席確認 準備運動 前屈立ち 移動基本 整理運動 集合挨拶	挨拶出席確認 準備運動 受け技 整理運動 集合挨拶	挨拶出席確認 準備運動 受け技 整理運動 集合挨拶	
ねらい	オリエンテーション 流れを覚える	空手道に必要な基本動作と技を身に付けて楽しむ	空手道に必要な基本動作と技を身に付けて楽しむ	空手道に必要な基本動作と技を身に付けて楽しむ	
自己評価	意欲 1 2 3 4 5 態度 1 2 3 4 5 技能 1 2 3 4 5	意欲 1 2 3 4 5 態度 1 2 3 4 5 技能 1 2 3 4 5	意欲 1 2 3 4 5 態度 1 2 3 4 5 技能 1 2 3 4 5	意欲 1 2 3 4 5 態度 1 2 3 4 5 技能 1 2 3 4 5	
学習の成果と反省	〈空手道の歴史や特性、礼法〉 〈立ち方、姿勢、突き〉 その他〈感想、反省〉	〈礼法〉 〈移動基本〉 その他〈感想、反省〉	〈礼法〉 〈受け技〉 その他〈感想、反省〉	〈礼法〉 〈受け技〉 その他〈感想、反省〉	
検印					

時数が、生徒一人一人が
しかし、8時間という
とができました。
形の試合形式まで行うこ
業で、目標であった基本
本年度は、8時間の授
（2）評価について



授業8時間の集大成である基本形の試合の発表

「怖そう」「痛そう」「つらそう」という回答のポイントが高かったことに比べ、授業後のアンケートでは、それらのポイントが大幅に下がり、「楽しそう」や「仲間と協力できた」という回答のポイントが上がる結果となりました。また、「強くなれそう」という回答のポイントは、授業前に比べて授業後は下がり、下がった分、「仲間と協力できた」などのポイントに移ったことは、この8時間の武道授業の目的が大きく達成できたのではないかと思われま

す。
武道は、世界に誇ることのできる日本の伝統文化のひとつです。そのことを生徒たちに伝承し、生涯スポーツへの学習機会の提供を図るため、生徒たちが更に関心・興味を持つよう、指導内容の充実をしていきたいと考えています。

【表2】

空手道学習ノート

空手道について知ろう！

1 空手道の歴史

空手道は、沖縄において我が国独自の徒手空拳の武術として発展し、国内に普及する過程において、日本古来の武術の精神を継承しながら、術から道に発展した我が国固有の武道である。沖縄には古来から「手（テー）」と呼ばれる武術が存在していたといわれていますが、これに中国から学んだ拳法が加わることで、中国を意味する「唐」の文字が加わり「唐手（カラテ）」という呼び名（のちの「空手」となる）が生まれたという説が有力です。

そして、空手の発達に大きく影響を与えたといわれているのが、2度にわたる武器の所持禁止政策、いわゆる禁武政策です。1度目は、琉球王朝の尚真王朝時代（1476～1526年在位）に実施され、国中の武器が集められ王府で管理されることになりました。2度目は、1609年の薩摩藩により行われた禁武政策によって、武器を奪われた人たちが自己を守るために徒手空拳の武術を深めていったといわれています。

こうして発達した空手は、明治37年頃には那覇市をはじめ沖縄各地で演武会が開催されるようになり、沖縄の中学校や師範学校で学校体育として採用されるようになりました。

空手を沖縄から本州に伝えたのは富名腰（船越）義珍という方です。富名腰は1916年頃から京都武徳殿において演武を行っており、1922年には東京で開催された第1回体育博覧会で「公相君」の形を公開演武しました。そして、その後は柔道の開祖である嘉納治五郎の要請により、講道館で門下生に空手の形や組手を披露し、そのまま東京に留まり空手の指導と普及活動に努めました。

昭和の時代になると、富名腰のほかにも多くの空手家が本州に渡り、空手の指導を行うようになりました。沖縄において、空手は発展の中心であった地域である那覇と首里の名称をとって「那覇手」と「首里手」に大別されていましたが、その後独自の創作を加えた多種多様な流派が国内でも多く発生しました。そんな中で、最も普及・発展した「松濤館流」「剛柔流」「糸東流」「和道流」は、4大流派と呼ばれていました。その4大流派を中心に、空手道の大同団結の気運が高まり、結成されたのが1964年設立の全日本空手道連盟（JKF 以下、全空連）です。

全空連は1969年に当時の文部省より財団法人の認可を得て、国内唯一の空手道総括団体になりました。そして、1972年には財団法人・日本体育協会に加盟、宮崎国体、栃木国体でのデモンストレーションを経て、1981年の滋賀国体では空手道が国体の正式種目となりました。

世界では、世界空手連盟（WKF）があり、現在では178カ国5000万人の空手人口を抱え、国際オリンピック委員会（IOC）の正式承認団体となっており、空手道は、名実共に世界的な武道として認知されています。

【『空手道で磨く“心技体”』ベースボール・マガジン社より一部抜粋】

2 空手道の特性

- (1) 左右対称な動きが多く、身体全体をバランスよく使用する。
- (2) 相手の動きに応じて自由に攻防し合う組手競技と、相手の動きを想定し構成された形競技とがある。
- (3) 協調性・判断力・創造性が養われる。また、格闘技形式特有の勇気、決断力などを養うことができる。練習や試合では、相手を尊重する態度、礼儀、公正な態度を養うことができる。